



日本科学者会議 (JSA) 滋賀支部
NEWS LETTER

2020年4月8日発行 第54号
事務局長 水原 渉
TEL/FAX 0749-47-5169 (共通)
go-ma-me@hi3.enjoy.ne.jp

【シリーズ:JSAとわたしー第4回】

「後期高齢者になって・・・」

個人会員分会 西馬三郎

後期高齢者になり、体力の衰えとともに気力も弱ってきた。何かしようと思ってもなかなか進まない。合気道（5段）、神道夢想流杖道（4段）、大東流合気柔術（初段）、無外流居合など武術もいろいろとやっているが、今はどの稽古も重荷になってきた。



他に体を動かすことでは、20年ほど前から、30坪ほどの畑に、いまの2月の寒い時期には白菜、キャ

ベツ、ブロッコリー、カリフラワー、ネギ、菊菜、水菜、里芋等を栽培しており、無農薬栽培の野菜を収穫して賞味している。これからは夏野菜用の畝作りが始まる。畝作りには耕運機などの機械は使用せず、備中と鍬でやっているの結構体力が要り、時間と手間もかかる。

平成5年頃に、後に日本科学者会議（JSA）滋賀支部の事務局長を長く務められた方に薦められて「日本の科学者」を購読するようになった。その頃は知的好奇心も旺盛で、購読していた朝日新聞には載らないような記事がいろいろあり、興味をそそられて毎号熱心に読んでいた。当時勤務していた滋賀県の大学の図書館でも購入し、閲覧できるようになっていいことだなと思っていた。

私が少し関わっている武道や畑での野菜づくりも、目にするのは“年寄り”ばかりで若手とか中堅がいない。まさに高齢化社会そのものである。

ここ1年、私が興味をもって読んだのは、「日本の科学者」2020年1月号の特集“非正規・不安定雇用女性研究者の今”、2019年12月号の特集“独立行政法人

を問い直す”、2019年10月号”カジノ誘致の諸問題“、2019年7月号“技能・技術教育の現状と課題”、2019年2月号“夜間中学が切り開く学習の自由”、2019年1月号“教育の構造が問われている”である。

「日本の科学者」は、身の回りにある諸問題の特集として広く深く掘り下げていて、いつも感心して読ませていただいている。今後、JSAへの参加者を増やしていくためには、若い人の関心を引くことが大切であると思われる。現実の社会では問題は無限にあるが、安倍晋三首相の不誠実な政治に腹を立てるよりも、次世代を担う若い人たちが抱く希望や不安に焦点をあて、特集として掘り下げていくことが肝要と考える。

【論考】ミツバチが告発する農薬ネオニコの脅威

個人会員分会 尼川大作

◆ 庭のミツバチがいなくなった！

ミツバチの生存を脅かす環境悪化がここマキノの地にも及んでいた。かつてはあちこちに巣箱が置かれニホンミツバチが飛び交う姿がよく見られたが、今ではさっぱり。私の家でも趣味で飼っていたニホンミツバチのコロニーが突然絶えてしまったことがあった。

◆ リモコン・ヘリで空から農薬の爆撃

その衰退の主因は、ネオニコチノイド系農薬（以下ネオニコ）の空中散布（写真は筆者による）が一番疑わしい。水田では、夏にカメムシが米粒を吸い、黒点の付いた斑点米ができる。それを防ぐために、当地も含め全国のほとんどの水田でこの神経毒による虫退治がなされてきた。だが、その際にミツバチなども巻き添えになったと地元の人はいう。生態系への



波及も憂慮されている。

◆ 等級を下げる斑点米は色彩選別機で除けるか

斑点米は食べても無害だが、米の評価基準では、1000粒中2粒の斑点米があると米の等級が下がってしまい、1俵当たり1000円ほどの価格低下となる。それで、農家もネオニコ依存から脱しきれない。今は色彩選別機の普及で斑点米を除くことができるようになったが、基準はまだ農家を縛っている。

◆ 食品や蜂蜜には微量ながらネオニコを含むものがある

我が家で採れた蜂蜜のネオニコ濃度を測定してもらったが、国の残留基準以下という結果だった。食品として一応安心と言いたいが、他方で国の現在の基準が妥当かどうかで異論も出ている。ネオニコのような人（特に子供）へのDNT（発達神経毒性）のリスクが疑われる新規の神経毒を扱う場合には、慎重さが求められる。農水省はこれまでも、ハウレンソウなどで基準を緩めるという本末転倒なことをしてきた。欧州（EU）などのようにネオニコを禁止ないし規制する方向に動くべきだと思うのだが。

◆ 少ない報道

ミツバチ減少の話をする、「農薬ネオニコは世界中で問題になっているそうだが、なぜ日本ではそんなに取上げられないの？」とよく聞かれる。報道が少ないからだ。「ヨーロッパ（EU）や米国などでは以前から問題になり、全面禁止や規制を進める国が次々出ていますが、残念ながら国内では関心が低い現状です。この問題は農業生産や農政に複雑に関わる面が大きく、強力な農薬大企業と農産物生産・流通の巨大機構も絡んでいますので、マスコミ報道も非常に慎重（よく言えば？）になっているのではないのでしょうか。でもネオニコ問題は国民の健康、特に子供の発達にも影響しかねないので、無視できないと思います。」と答えてきた。

◆ 自治体への働きかけ

私の所属する高島の環境団体「ミツバチまもり隊」は、これまでも県や市へ規制の申し入れをした。今春には先の斑点米規定の廃止を国に求める意見書を出してくださいという請願を市議会に行った。宍道湖でのネオニコによる漁獲量激減の研究論文も添えて琵琶湖に絡めてアピールしたが、結果は空振り。

◆ 瀬目が変わるか？

ネオニコ問題での最近の動き、例えば日弁連が出した規制の意見書や、一昨年公表された欧州食品安全機関の科学的検証はあまり知られていない。しかしごく最近、呪縛が解けたように週刊誌（「週刊新潮」に「週刊女性」など）や新聞でもネオニコの健康問題がとりあげられるようになった。だが、安全神話は根強い。家庭内でもネオニコは虫よけや花卉の手入りに広く使われている。広範な運動が必要だ。

【報告】「原発のない社会へ 2020 びわこ集会」

標記集会は3月7日、大津市の膳所城址公園で行われた。毎年3月11日のメモリアルデー前後に行われるびわこ集会は、今年で8回目、メインテーマは「関電原発ブラックマネーの徹底究明を」、「高浜・美浜の老朽原発を動かすな」であった。

新型コロナウイルス禍で京都、大阪の集会は中止、福井の集会も延期と伝えられる中で、2月末の緊急実行委で対応が話し合われた。びわ湖に突き出た半島状の膳所公園の野外集会は、感染リスクがほとんど無いと判断し、実施が決まった。ただしデモはとりやめ、例年の模擬店、ライブ、プラカードコンテスト、生涯学習センターの屋内行事も中止した。参加人数も危ぶまれたが、天候に恵まれ、例年より少ないものの、500人もの参加が得られた。関西唯一の集会となり、京都など他府県からの参加もかなり見られた。

ステージは2時間に短縮されたが、おしどりマコ・ケンさんの熱の入ったトークで盛り上がった。集会は嘉田由紀子参院議員の連帯挨拶、滋賀県知事と大津、近江八幡、米原、日野の各市町の首長メッセージ紹介、井戸謙一弁護士のホットな基調報告、福島からの避難者の佐藤勝十志さんの訴え、原発に反対する福井県民会議の宮下正一さんの「老朽原発うごかすな 5・17大集会」への参加呼びかけ、集会アピール採択と進んで終了した。

模擬店もなく寂しい反面、ステージに集中できたとの声も多かった。例年に劣らぬ意義ある集会だったといえよう。YouTubeで2020びわこ集会と検索すれば、すべて見る事ができる。（個人会員分会 野口 宏）